

トライアル（フェーズ2以降）における制度・運用面の検討について

ENUMトライアルのフェーズ2（『ENUM上で通信を動かす』）に向けて、その実験を円滑に進め、各種トライアルを発展させるためには、運用の基本的考え方などの整理とルール化が必要だと考えています。整理事項を以下のとおり提案します。

1．適用する番号の選定について

ENUMトライアルに適用する電気通信番号として専用の050番号など（例えばCDE単位）を新たに取得し使用することを提案します。理由、背景は以下のとおりです。

- ・既存の電気通信番号をトライアルに使用して商用網に接続することは、既存の電気通信サービス内容と既存サービス利用者に混乱を与える可能性があること。
- ・050番号はIP電話の番号であり、また地理を識別しない番号（ロケーションフリー番号）であることから、ENUMとの親和性があると考えられること。

2．登録モデル、役割分担について

ENUM研究グループで整理された幾つかの登録モデルについて、ETJPではどのような形とするのか、また、レジストリ、レジストラ、認証機関などの各役割分担について、誰が担当するのか、整理を行うことを提案します。

3．セキュリティの要求条件について

ETJP参加メンバーにおけるセキュリティ対策について、最低限のものを共通ルールとして決めることを提案します。

DNS情報はインターネット全体で公開され、誰でもその登録情報をアクセスできることを原則としていますが、登録者申請者の成りすまし、登録データの改竄、不適切な情報の登録、DoS攻撃などが想定されます。また、ユーザ情報保護の観点からも、セキュリティが重要と考えています。

本格的なENUMに向けたセキュリティの要求条件については、今後のトライアルを通じて、継続的な検討が必要だと考えています。

以上